



あなたと  
**共に**

PCR外来・検査センター  
10カ所開設をめざす  
どのように変わるか？

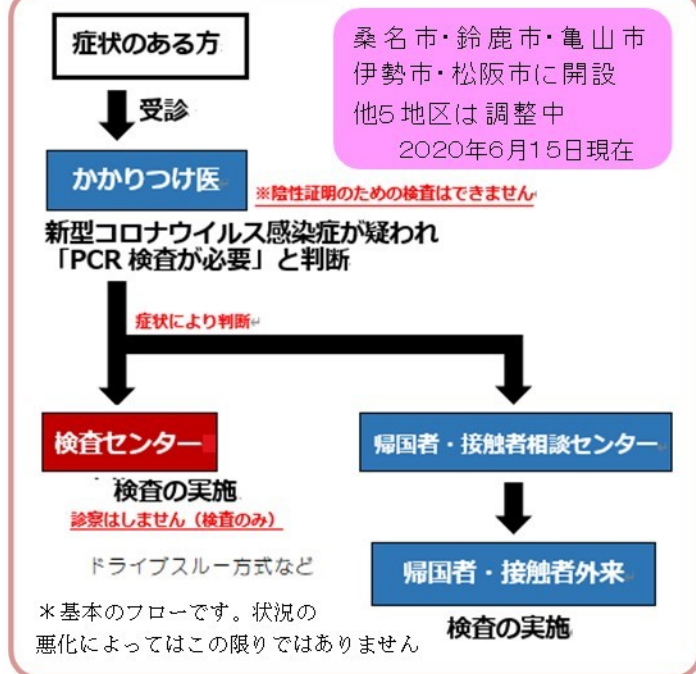
山本りか県議は、三重県内において、医療関係者のはたらきや、保健所や防疫担当のクラスター追跡、県内事業者・県民の協力があって感染拡大に一定歯止めがかかったことを評価した上で、この間、感染の不安がある方が医療機関を受信できず困ったとの相談が相次いだことや、お医者様がPCR検査を要求しても、検査拒否が5割あったという実態を示し、必要な人にきちんと検査が行きわたることが大切と訴えました。

加太医療保健部長は、今後診療所などで医師が新型コロナウイルス感染症の疑いがあると判断

## 一般質問 6月10日 新型コロナウイルス感染症 検査体制と医療体制の 強化・経営支援を



した場合に直接PCR外来を案内し検体採取の流れができる。これまでよりも幅広く迅速に検査が実施できると答えました。



「新型コロナ対策」—感染患者受入れ病床整備状況等 三重県

項目	病床数・数値	人口10万人対比
感染症指定病床	24	1.32
協力病院病床数	151	8.34
合計受入れ病床	175	9.66
うち重傷者受入れ病床	33	1.82
宿泊施設受入れ可能数	64	3.53
PCR総検査数(6月4日まで)	2,561	121.4
PCR検査最大実績(1日当たり)	122件/日	

加太一医療保健部長  
「非常時における各医療機関の果たす役割も織り込みながら検討する」

山本りか県議は、「効率至上主義」の国の再編統合検討の押し付けを拒否するよう求め、医療体制再構築こそ必要と指摘しました。また、国の社会保障抑制政策によってぎりぎりの経営を強いられしてきた上に、感染症患者受け入れ病院をはじめ、街の診療所でも受診控えなどで経営が窮している実態があると、経済的支援を求めました。

山本りか県議「新型コロナウイルス感染症ピーク時には県内の重傷者百十人との厚生労働省の試算。今回は一般病院にも協力いただく体制をとって切り抜けたが、居住地域の医療機関感染症対策のベッドの空きがなく他地域での入院となる事例もあった。懇談した保健所や病院の多くで『今回は持ちこたえたが次はわからない』との声が出ている。国が求める地域医療構想において、県内で既に1300床の病床を削減し、さらに公立・公的病院の統合を進めることは見直すべきではないか」

病院ヘッド減らして大丈夫？

\*ご相談・ご意見・ご要望はこちらへ\*

日本共産党 北勢地区委員会  
四日市市新正4-21-11  
☎ 059-351-8184  
三重県議会内  
日本共産党控室  
☎ 059-224-3302

新型コロナウイルス感染症で、お亡くなりになった方へお悔やみ申し上げますとともに、今なおつらい思いをしてみえる感染患者のみなさんやそのご家族関係者にお見舞い申し上げます。

医療・介護・学校・生活現場で頑張っていただいているみなさんに心から感謝と、経営難を押して感染拡大阻止のため協力いただいているすべてのみなさまに敬意を送ります。

山本りか